



住生活・家電・家具店



ホームセンター



ドラッグストア

の皆様へ

# 労働災害を防止しましょう！

都内の小売業では、広い店舗内でのつまずき、滑りにより転ぶ「転倒」及び大量かつ重い商品の取扱いで筋をちがえる、くじく、ぎっくり腰になる「動作の反動・無理な動作」と呼ばれる労働災害で全災害の約5割を占めます。

特に生活雑貨、電化製品、家具、DIY用品等の充実した品揃えを販売する住生活店等では、重い商品を扱う、陳列密度が高い、売り場の面積に比べ取扱いアイテム数が多い、売り場の天井が高い等の特徴があるため、以下のような災害が発生しやすくなります。



作業エリアが広いことによる移動時につまずき、滑りにより転ぶ



無理な体勢での重い商品の補充により筋をちがえる、くじく、ぎっくり腰になる



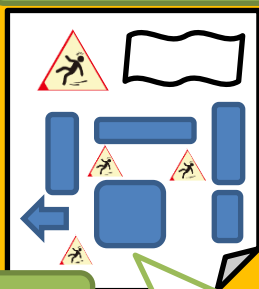
高い箇所への陳列や天井POPの取り付け作業中に脚立等から落ちる

労働災害防止には、危険箇所などの「見える化」をはじめとする安全意識の向上、雇い入れ時の安全衛生教育が重要となります。

さあ、職場に合った効果的な労働災害防止対策をしてみましょう！

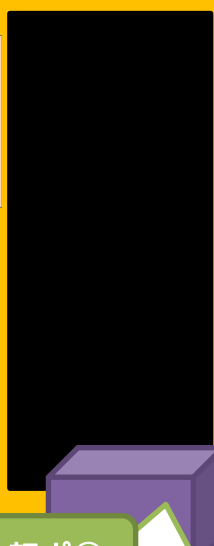


## 転倒防止対策のポイント



転ポ⑤

店舗内の段差のある箇所や滑りやすい場所などにマーカー、テープなどで「見える化」を！  
そして、転倒危険マップを作成し、バックヤードなどで周知しよう！



転ポ④

通路、階段、出口に物を置かない！



転ポ①

バックヤードや階段等にも安全に移動できるように十分な明るさを！



転ポ②

歩きスマホ、大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での階段の移動はダメ！

転ポ③

作業を行う際は、接地面積が広く滑りにくい靴を！

災害事例

ケース1 濡れた床の清掃中、足を滑らせ転倒、床面に頭部・胸部を打撲し死亡。(68歳女性)

ケース2 事務所内のついたてのベースにつまずき転倒、頸椎を骨折し死亡。(62歳男性)



～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～

東京労働局・労働基準監督署



# 腰痛等防止対策のポイント

床から荷物を持ち上げる場合は、

片足を少し前に出し**膝を曲げる**！

十分に**腰を下ろす**！

背を**伸ばし**、腰を**捻らず**！

膝を伸ばすように**立つ**！




腰ポ⑤

腰ポ①

1つの荷物は**10kg程度が目安**です。これを超える場合は、2人以上で作業しよう！

腰ポ②

取り扱う荷物の重さがわかるように**重さの「見える化」**  を！

腰ポ③

移動距離は短くし、**人力での作業は減らそう**！

腰ポ④

無理な姿勢の作業とならないようにバックヤードは**整理・整頓**！



## 災害事例

ケース1 商品の入った段ボールを繰り返し棚に収納し、両手首腱を負傷。休業1ヶ月。(20歳女性)

ケース2 機材を持ち上げた際、予想より重く、急性腰痛を発症。休業3ヶ月。(36歳男性)



# 脚立等からの墜落防止対策のポイント

墜ポ⑤

身体のバランスをしっかり保持するよう、昇降時は**荷物を手に持たずに**、三肢で支える**3点支持**！

墜ポ④

経験の浅い従業員には、脚立の正しい使い方指導を行い、作業時は**複数人**で行おう！



墜ポ①

陳列棚の上段には、**大きいもの、重いものを陳列しない**！

墜ポ②

脚立の危険内容などが一目でわかる「墜落危険マーカー」で

「見える化」  を！

墜ポ③

天井POP、高い個所への陳列は、脚立の天板に乗ったり、またいだ状態で作業せず、上から**2段目以下の踏ざん**に乗って身体を固定した状態で作業する！

## 災害事例

ケース1 商品の棚卸し作業中、脚立から降りる際に転落し、後頭部を打ち死亡。(70歳男性)

ケース2 両手に荷物を持ち、階段を下りていたところ、転落し頭を打ち死亡。(55歳男性)

上で使用している「見える化ステッカー」  & 「マーカー」  の活用をぜひ！

東京労働局では、「Safe Work TOKYO 2018」を展開しており、小売業・社会福祉施設・飲食店等の労働災害の防止に関する様々な情報を掲載しています。

[https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news\\_topics/topics/2017/9\\_00002.html](https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news_topics/topics/2017/9_00002.html)

